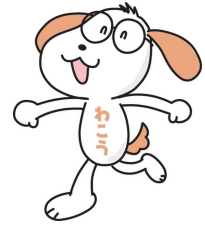


和光市男女共同参画に関する 意識調査 報告書

速報版



調 査 概 要

調査設計等	① 市 民 意 識 調 査		② こ ど も 意 識 調 査	
	◆調査対象	和光市在住の満 20 歳以上の男女	◆調査対象	1. 小学生 市内の小学 4 年生 2. 中学生 市内の中学 2 年生
調査項目	◆標本数	2,000	◆標本数	715 531
	◆標本抽出	無作為抽出	◆標本抽出	—
	◆調査方法	郵送	◆調査方法	学校配布・学校回収
	◆調査期間	令和元年 8 月 16 日（金）～8 月 30 日（金）	◆調査期間	令和元年 9 月 9 日（月）～9 月 24 日（火）
	◆有効回収数	695	◆有効回収数	714 493
	◆有効回収率	34.8%	◆有効回収率	99.8% 92.8%
調査項目	1 男女共同参画に関する意識について 2 家庭生活について 3 地域参加について 4 配偶者や恋人からの暴力について 5 仕事について 6 健康について 7 防災について 8 男女共同参画の取り組みについて		男女の性差についての意識、性別役割意識について 家事手伝い状況、性別役割分担意識、希望する将来の働き方 男女共同参画に関する言葉の理解度 デジタルデバイスによる見知らぬ人とのやりとり経験 等	

※ 基数となるべき実数（n）は、設問に対する回答者数です。

※ 本文中の「百分率」は小数点第 2 位を四捨五入しているため、あるいは複数回答のため、数値の合計が 100 とならない場合があります。

1 市民意識調査

回答者の属性

1 性別

	基 数（人）	構成比（%）
女性	398	57.3
男性	292	42.0
その他	1	0.1
（無回答）	4	0.6
合 計	695	100.0

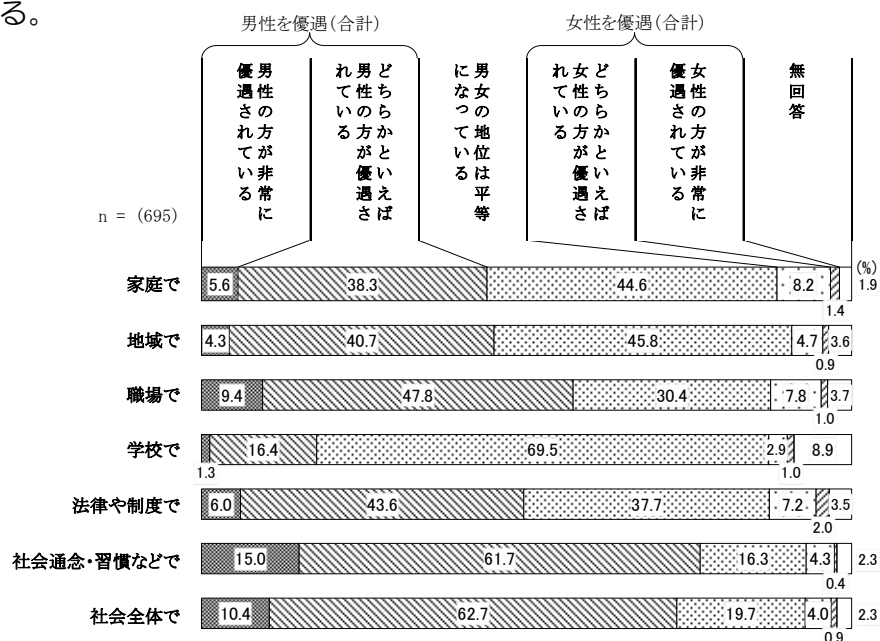
2 性／年代別

	全体		女性		男性		その他		無回答	
	基数 (人)	構成比 (%)	基数 (人)	構成比 (%)	基数 (人)	構成比 (%)	基数 (人)	構成比 (%)	基数 (人)	構成比 (%)
20 歳代	83	11.9	51	12.8	32	11.0	－	－	－	－
30 歳代	128	18.4	85	21.4	42	14.4	1	100.0	－	－
40 歳代	166	23.9	101	25.4	65	22.3	－	－	－	－
50 歳代	128	18.4	62	15.6	66	22.6	－	－	－	－
60 歳代	119	17.1	67	16.8	52	17.8	－	－	－	－
70 歳以上	68	9.8	32	8.0	35	12.0	－	－	1	25.0
(無回答)	3	0.4	－	－	－	－	－	－	3	75.0
合 計	695	100.0	398	100.0	292	100.0	1	100.0	4	100.0

1 男女共同参画に関する意識について

1 男女の地位の平等感

男女の地位の平等感については、「男女の地位は平等になっている」は学校で（69.5%）が最も高く、地域で（45.8%）、家庭で（44.6%）が半数近くとなっている。「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた《男性を優遇（合計）》は社会通念・習慣などで（76.7%）、社会全体で（73.1%）、職場で（57.2%）がそれぞれ過半数となっている。

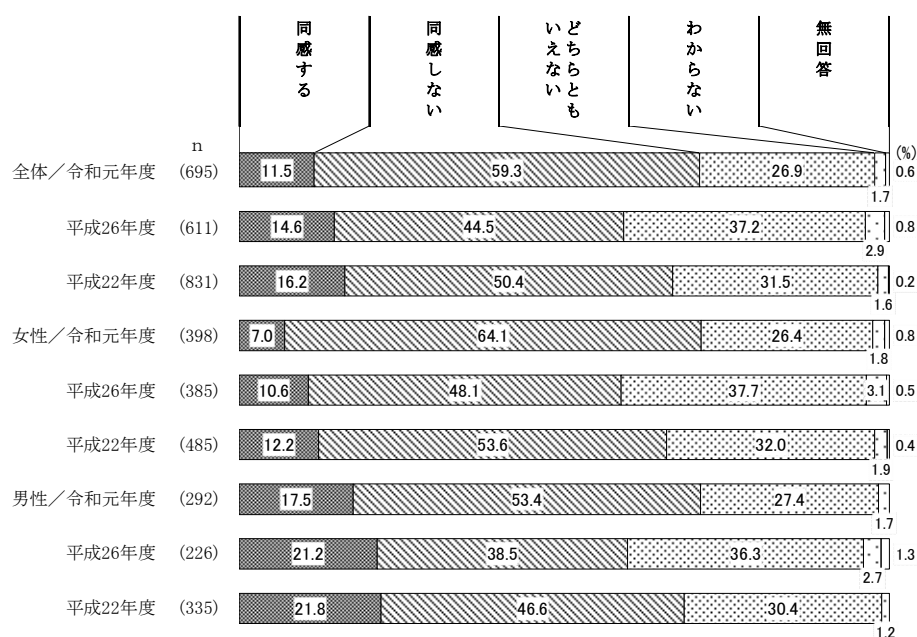


2 性別による固定的な役割分担意識

「男は仕事、女は家庭」という性別による固定的な性別役割分担意識については、「同感しない」が59.3%を占めており、「同感する」が11.5%となっている。また、「どちらともいえない」が26.9%である。

性別でみると、「同感する」が女性7.0%、男性17.5%と、男性が女性を上回っている。一方、「同感しない」は女性64.1%、男性53.4%と、女性が男性を上回っている。

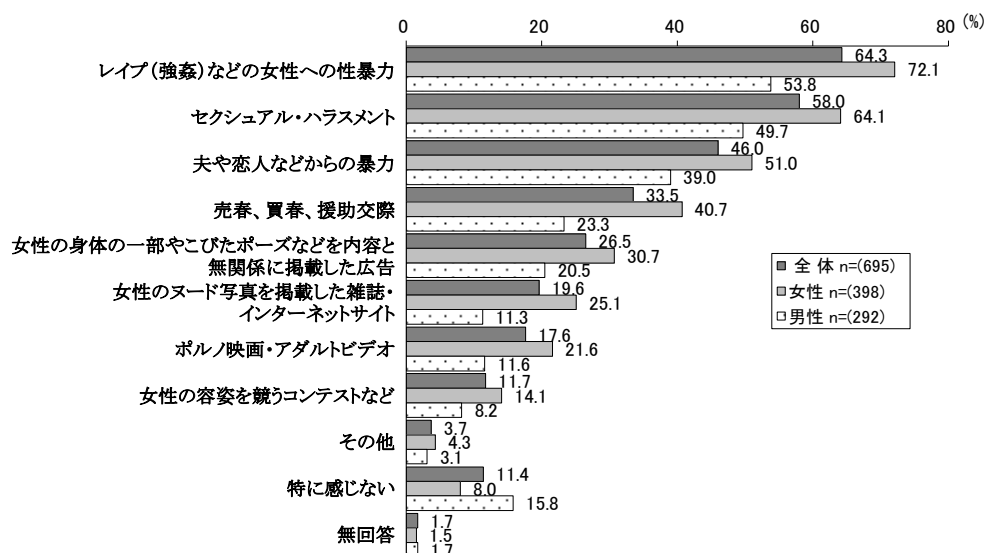
経年で比較すると、「同感する」は平成22年度から令和元年度にかけて、男女ともに減少している。一方、「同感しない」は平成26年度から令和元年度にかけて、男女ともに大きく増加している。



3 女性の人権が尊重されていないと感じるとき

女性の人権が尊重されていないと感じるときは、「レイプ（強姦）などの女性への性暴力」が64.3%と最も多くなっている。次いで「セクシュアル・ハラスメント」が58.0%、「夫や恋人などからの暴力」が46.0%となっている。

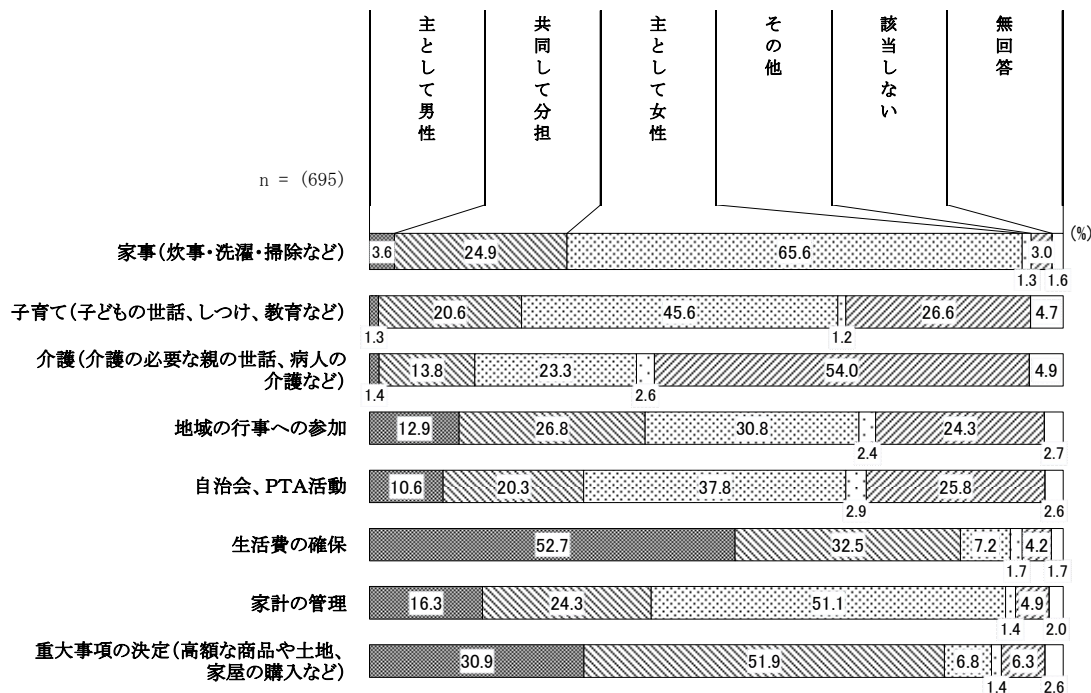
性別でみると、全体的に女性が男性を上回っており、特に「レイプ（強姦）などの女性への性暴力」（72.1%）、「売春、買春、援助交際」（40.7%）が男性に比べて高くなっている。



2 家庭生活について

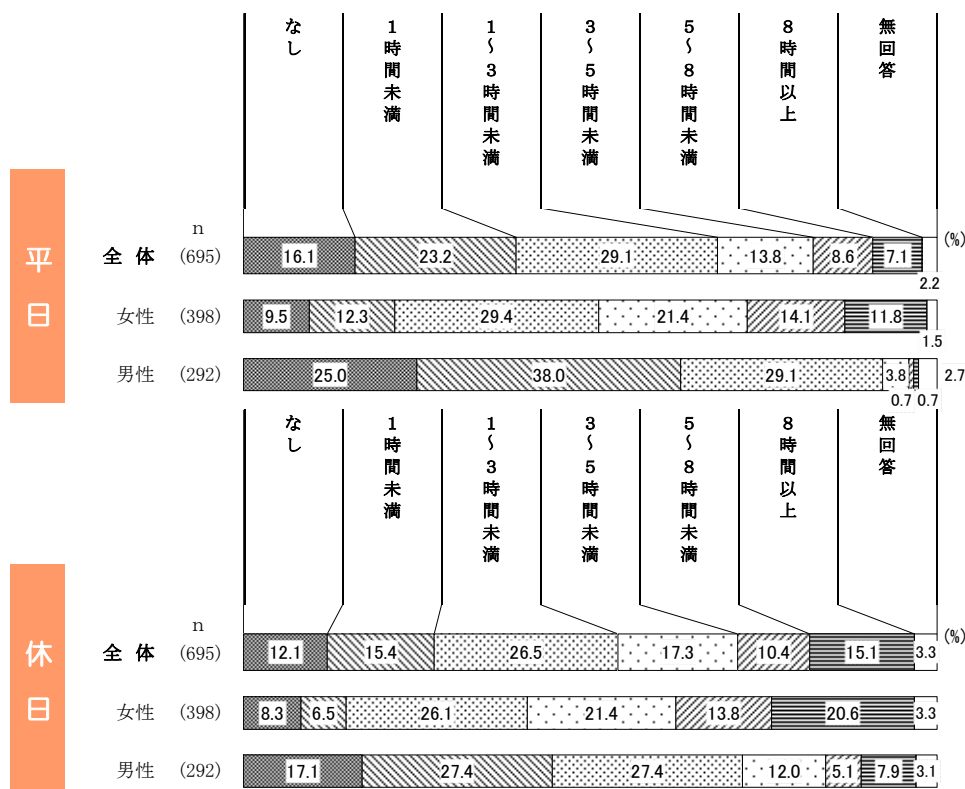
1 家庭生活での役割分担

家庭生活での役割分担については、「共同して分担」は重大事項の決定（高額な商品や土地、家屋の購入など）（51.9%）で過半数となっている。「主として女性」は家事（炊事・洗濯・掃除など）（65.6%）、家計の管理（51.1%）でそれぞれ過半数、「主として男性」は生活費の確保（52.7%）で過半数となっている。



2 平日や休日に家事・子育て・介護にかかわる時間

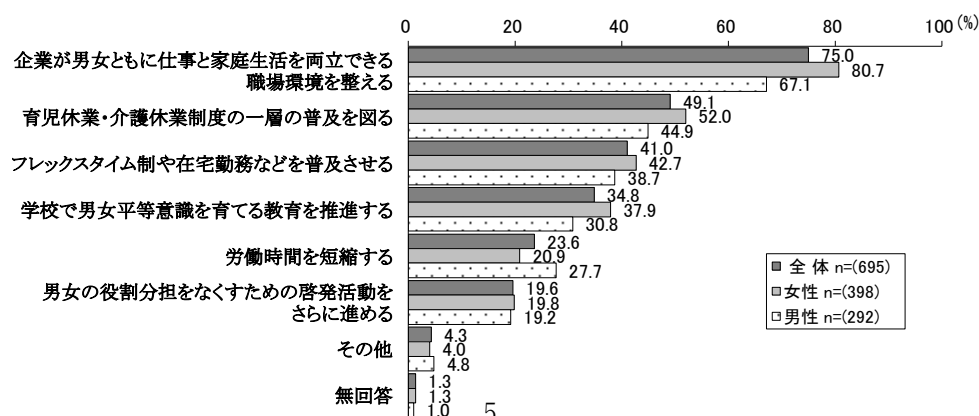
平日の家事・子育て・介護にかかわる時間は、女性では「1～3時間未満」(29.4%)が最も高いが、「3～5時間未満」(21.4%)、「5～8時間未満」(14.1%)も高くなっている。一方、男性では「1時間未満」(38.0%)、「1～3時間未満」(29.1%)、「なし」(25.0%)が高くなっている。休日についても、女性では「1～3時間未満」(26.1%)、「3～5時間未満」(21.4%)、「8時間以上」(20.6%)も高く、男性では「1時間未満」と「1～3時間未満」(ともに27.4%)、「なし」(17.1%)が高くなっている。



3 男女がともに家事・子育て・介護へ参加するために必要だと思うこと

男女がともに家事・子育て・介護に参加していくために必要なことは、「企業が男女ともに仕事と家庭生活を両立できる職場環境を整える」が75.0%と最も多くなっている。次いで「育児休業・介護休業制度の一層の普及を図る」が49.1%、「フレックスタイム制や在宅勤務などを普及させる」が41.0%、「学校で男女平等意識を育てる教育を推進する」が34.8%となっている。

性別でみると、女性では「企業が男女ともに仕事と家庭生活を両立できる職場環境を整える」(80.7%)、「育児休業・介護休業制度の一層の普及を図る」(52.0%)、「学校で男女平等意識を育てる教育を推進する」(37.9%)が男性に比べて高くなっている。一方、男性では「労働時間を短縮する」(27.7%)が女性に比べて高くなっている。

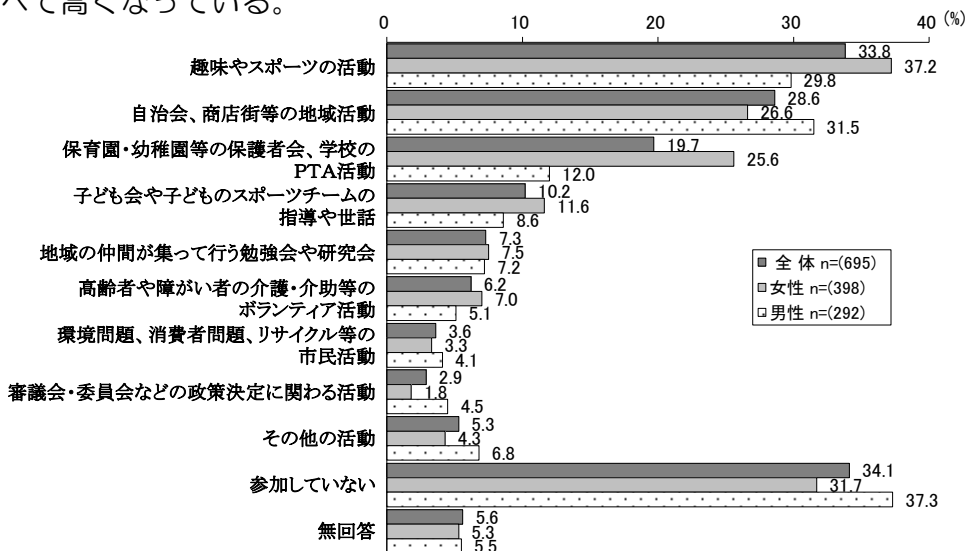


3 地域参加について

1 社会活動の参加実態

過去3年間に参加したことがある活動は、「趣味やスポーツの活動」が33.8%と最も多くなっている。次いで「自治会、商店街等の地域活動」が28.6%、「保育園・幼稚園等の保護者会、学校のPTA活動」が19.7%となっている。一方、「参加していない」は34.1%である。

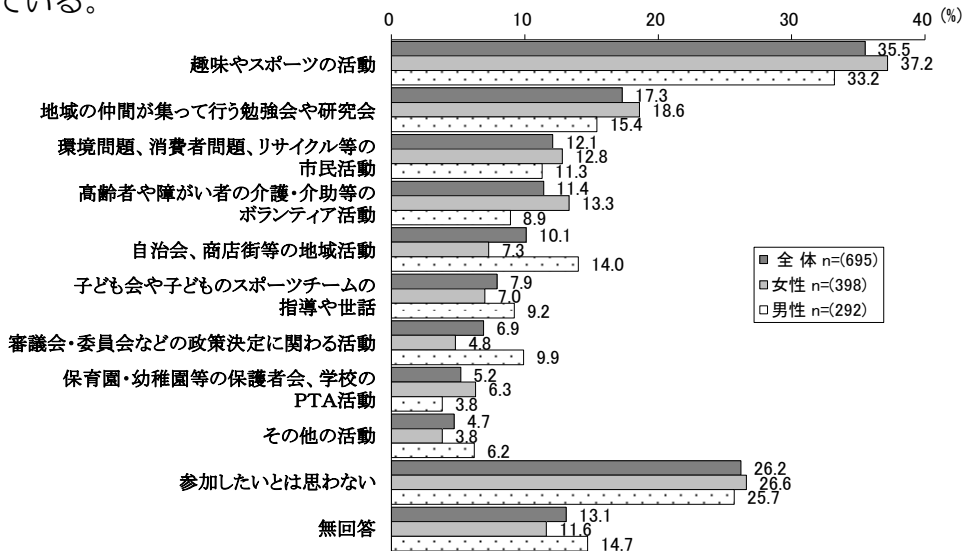
性別でみると、参加状況は全体的に女性が男性を上回っており、特に「趣味やスポーツの活動」(37.2%)、「保育園・幼稚園等の保護者会、学校のPTA活動」(25.6%)が男性に比べて高い。一方、男性では「参加していない」(37.3%)、「自治会、商店街等の地域活動」(31.5%)は男性が女性に比べて高くなっている。



2 今後の参加意向

今後参加してみたい活動は、「趣味やスポーツの活動」が35.5%と最も多くなっている。次いで「地域の仲間が集って行う勉強会や研究会」が17.3%、「環境問題、消費者問題、リサイクル等の市民活動」が12.1%、「高齢者や障がい者の介護・介助等のボランティア活動」が11.4%となっている。一方、「参加したいとは思わない」は26.2%である。

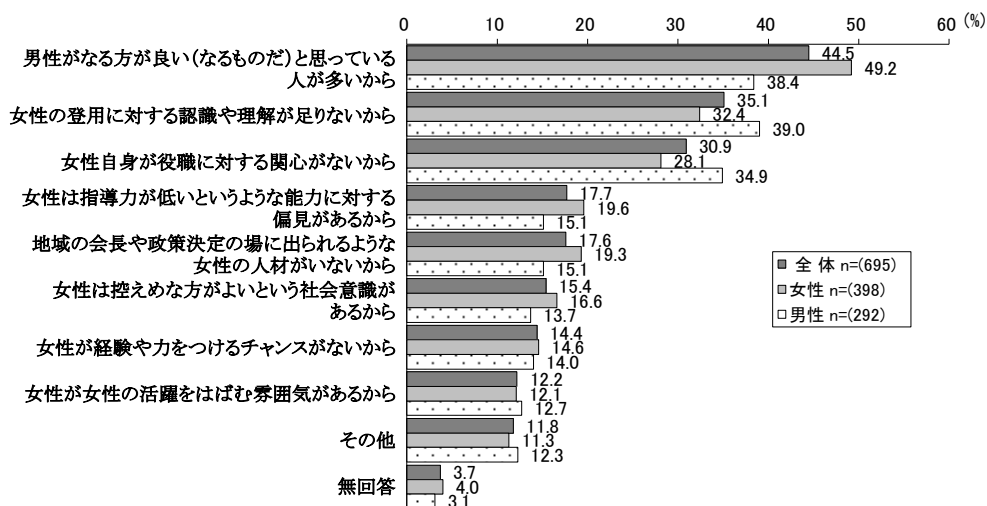
性別でみると、女性では「趣味やスポーツの活動」(37.2%)、「高齢者や障がい者の介護・介助等のボランティア活動」(13.3%)が男性に比べて高くなっている。男性では「自治会、商店街等の地域活動」(14.0%)、「審議会・委員会などの政策決定に関わる活動」(9.9%)が女性に比べて高くなっている。



3 自治会等の役職、議員、行政委員における女性の割合が低い理由

自治会等の役職、議員、行政委員における女性の役割が低い理由は、「男性になる方が良い（なるものだ）と思っている人が多いから」が44.5%と最も多くなっている。次いで「女性の登用に対する認識や理解が足りないから」が35.1%、「女性自身が役職に対する関心がないから」が30.9%となっている。

性別でみると、女性では「男性になる方が良い（なるものだ）と思っている人が多いから」（49.2%）が男性に比べて高くなっている。男性では「女性の登用に対する認識や理解が足りないから」（39.0%）と「女性自身が役職に対する関心がないから」（34.9%）が女性に比べて高くなっている。

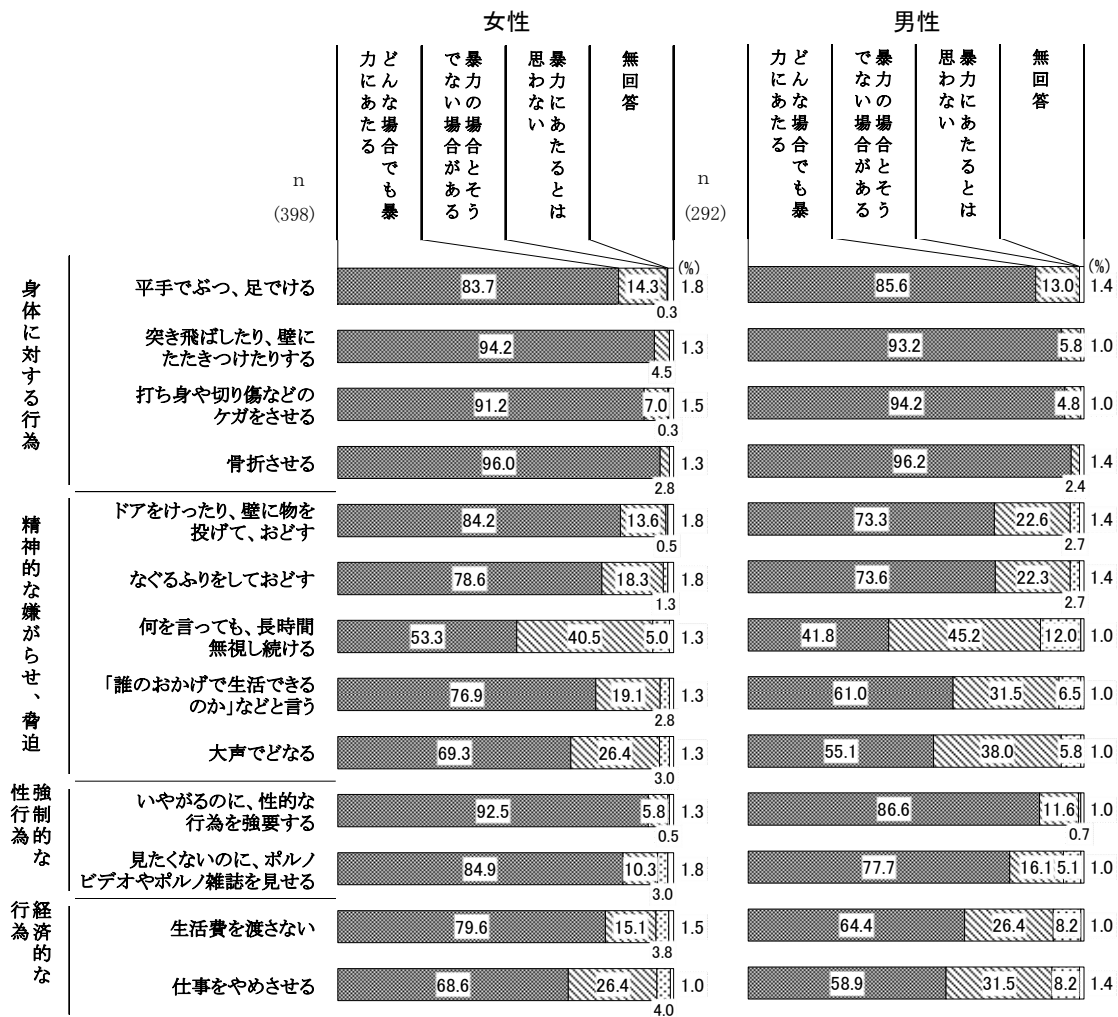


4

配偶者や恋人からの暴力について

1 夫婦・恋人間の暴力の認識

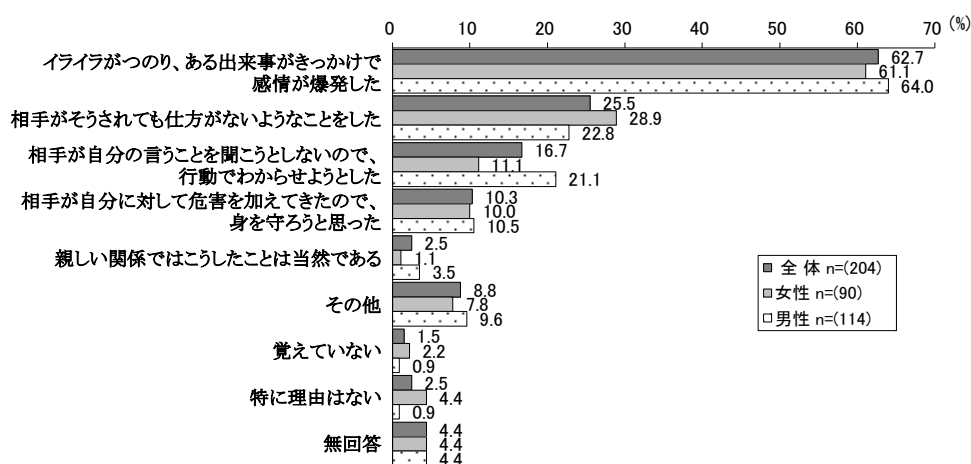
夫婦・恋人間の暴力の認識については、「どんな場合でも暴力にあたる」は、『身体に対する行為』の突き飛ばしたり、壁にたたきつけたりする、打ち身や切り傷などのケガをさせる、骨折させるで、男女ともに9割を超えている。また、「どんな場合でも暴力にあたる」は、『身体に対する行為』の突き飛ばしたり、壁にたたきつけたりする、および『精神的な嫌がらせ・脅迫』、『強制的な性行為』、『経済的な行為』のすべての項目で、女性が男性を上回っている。特に、『精神的な嫌がらせ・脅迫』の「誰のおかげで生活できるのか」などと言う、大声でどなる、『経済的な行為』の生活費を渡さないで、男女の差が大きくなっている。



2 加害行為に至ったきっかけ

加害行為に至ったきっかけは、「イライラがつのり、ある出来事がきっかけで感情が爆発した」が62.7%と最も多くなっている。次いで「相手がそうされても仕方がないようなことをした」が25.5%、「相手が自分の言うことを聞こうとしないので、行動でわからせようとした」が16.7%となっている。

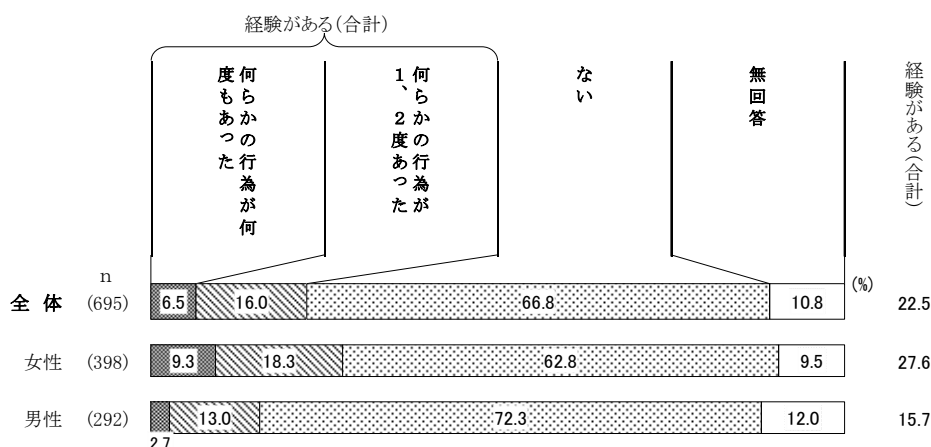
性別でみると、女性では「相手がそうされても仕方がないようなことをした」が28.9%と男性より高くなっている。男性では「相手が自分の言うことを聞こうとしないので、行動でわからせようとした」が21.1%と女性に比べて高くなっている。



3 配偶者・恋人からの被害経験の有無

配偶者・恋人からの被害経験の有無について、「身体に対する行為」、「精神的な嫌がらせ、脅迫」、「強制的な性行為」、「経済的な行為」の4つの行為のうち、何らかの被害経験がある人をまとめたところ、「何らかの行為が何度もあった」と「何らかの行為が1、2度あった」を合わせた《経験がある（合計）》は、全体で22.5%となっている。

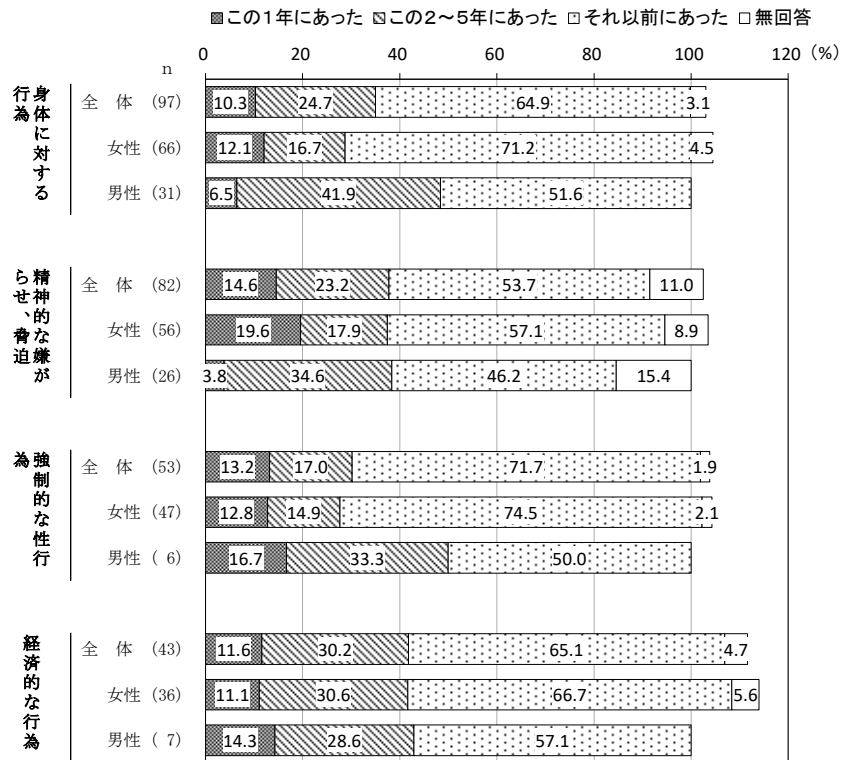
性別でみると、《経験がある（合計）》は、女性27.6%、男性15.7%と女性が男性を上回っている。



4 配偶者・恋人からの被害経験の時期

配偶者・恋人からの被害経験の時期について、「この1年にあった」は『精神的な嫌がらせ・脅迫』（14.6%）で最も多く、次いで『強制的な性行為』（13.2%）となっている。「この2～5年にあった」は、『経済的な行為』（30.2%）で3割を超えている。「それ以前にあった」は『強制的な性行為』（71.7%）で7割を超えている。

性別でみると、「この1年にあった」は『精神的な嫌がらせ・脅迫』で女性が約2割となっている。「この2～5年にあった」は『経済的な行為』で女性が3割を超えている。「それ以前にあった」は『強制的な性行為』と『身体に対する行為』で女性が7割を超えている。

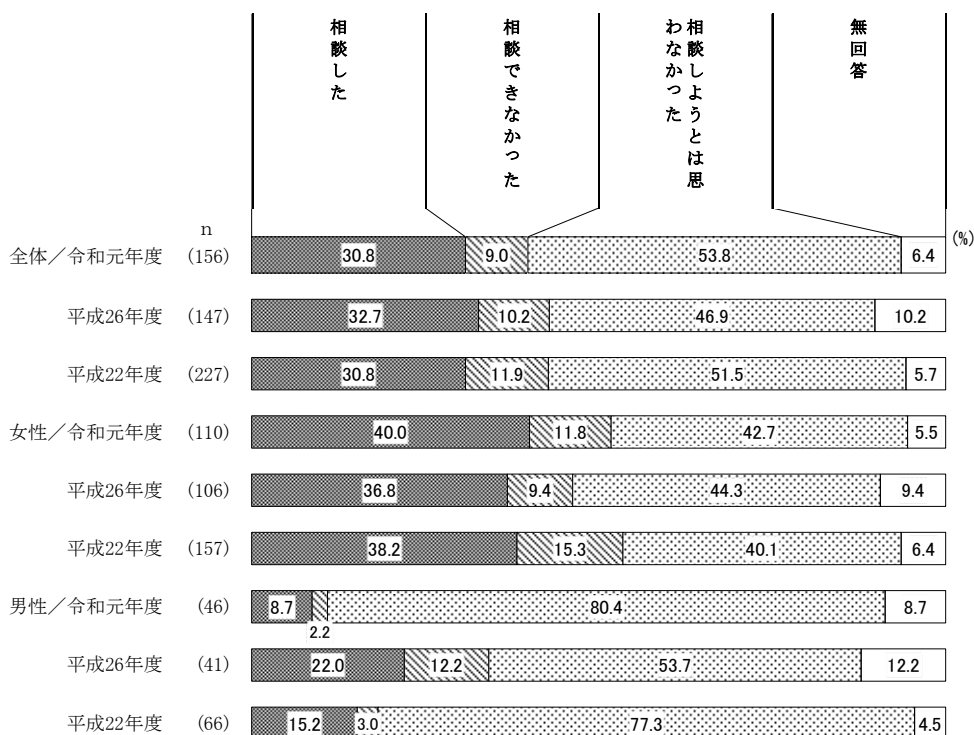


5 暴力に関する相談

相手から受けた行為について「相談した」が30.8%である。一方、「相談しようとは思わなかった」が53.8%を占めており、「相談できなかった」が9.0%となっている。

性別でみると、「相談した」が女性40.0%、男性8.7%と、女性が男性を大きく上回っている。一方、「相談しようとは思わなかった」が女性42.7%、男性80.4%と、男性が女性を大きく上回っている。

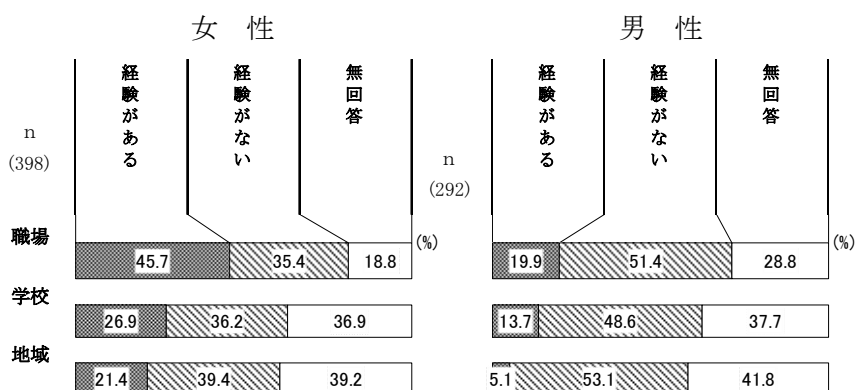
経年で比較すると、女性では平成22年度から令和元年度にかけて、「相談した」が増加し、「相談できなかった」が減少している。男性では平成22年度から令和元年度にかけて、「相談した」が減少し、「相談しようとは思わなかった」が増加している。



6 職場・学校・地域での不愉快な経験

これまで、職場、学校、地域で不愉快な経験をしたことがあるかを聞いた。何らかの「経験がある」と回答した人は、全体でみると、職場で3割台半ば、学校で2割を超え、地域で1割台半ばとなっている。

性別でみると、女性では「経験がある」は職場で4割台半ば、学校で2割台半ば、地域で2割強と、男性に比べて高くなっている。「経験がない」は職場と地域で男性が過半数、学校で約半数と、女性に比べて高くなっている。

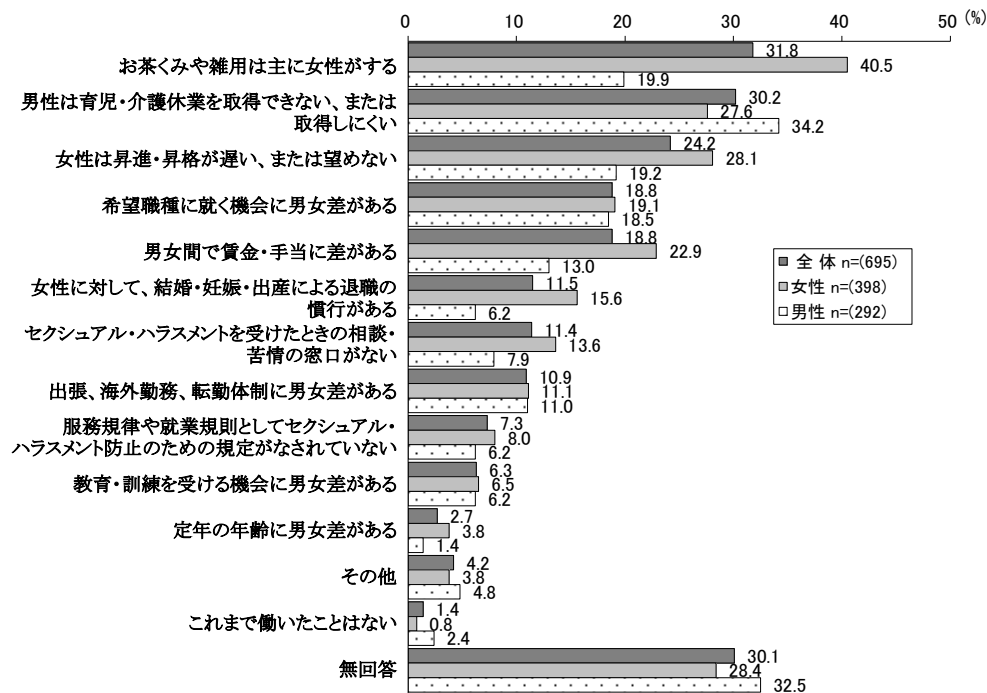


5 仕事について

1 職場の実態

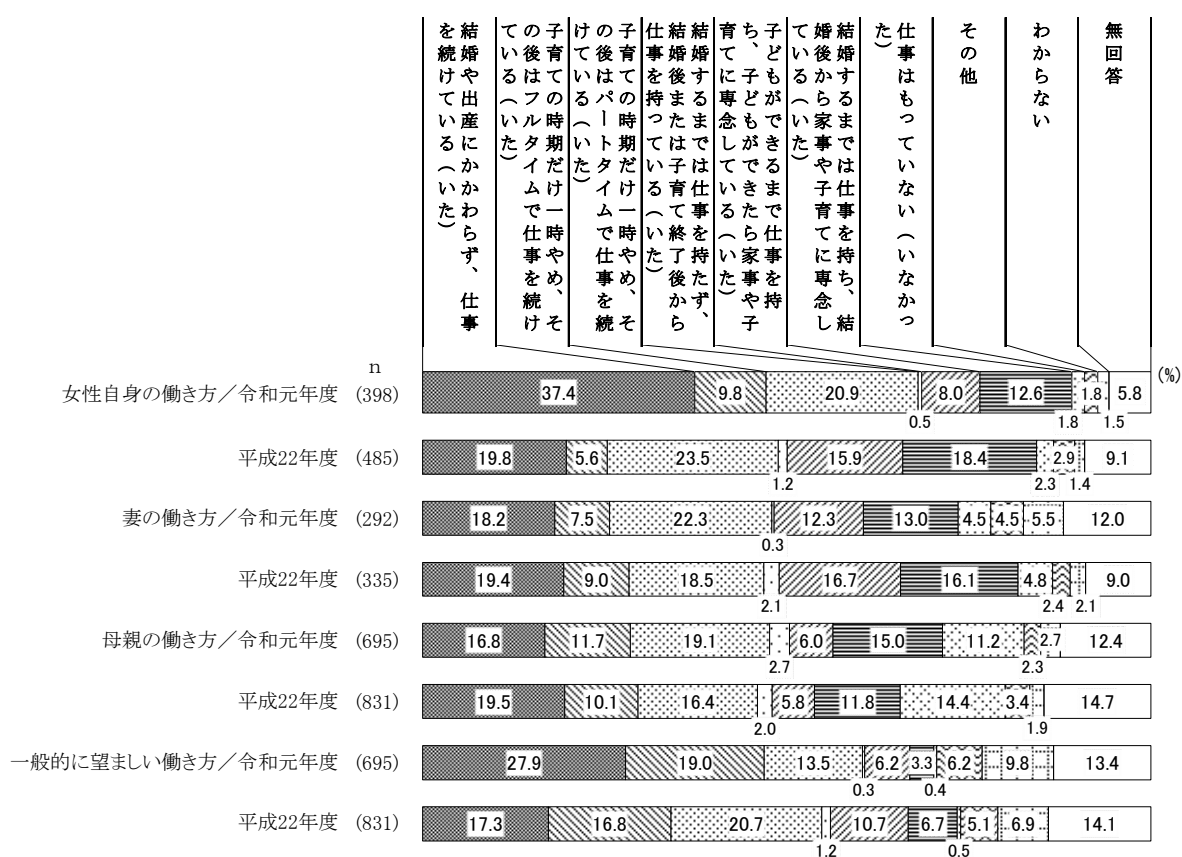
職場の実態は、「お茶くみや雑用は主に女性がする」が31.8%と最も多くなっている。次いで「男性は育児・介護休業を取得できない、または取得しにくい」が30.2%、「女性は昇進・昇格が遅い、または望めない」が24.2%となっている。

性別でみると、全体的に女性が男性を上回っており、特に「お茶くみや雑用は主に女性がする」(40.5%)、「男女間で賃金・手当に差がある」(22.9%)が男性に比べて高い。男性では「男性は育児・介護休業を取得できない、または取得しにくい」(34.2%)が女性に比べて高くなっている。



2 女性の就業についての意識（一般的に望ましい働き方）

「女性の就業についての意識（一般的に望ましい働き方）」については、平成22年度調査と比較すると、女性自身の働き方については、「結婚や出産にかかわらず、仕事を続けている（いた）」が大きく増加、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続けている（いた）」がやや増加し、「子どもができるまで仕事をもち、子どもができたなら家事や子育てに専念している（いた）」、「結婚するまでは仕事をもち、結婚後から家事や子育てに専念している（いた）」が減少している。妻の働き方については、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続けている（いた）」がやや増加し、「子どもができるまで仕事をもち、子どもができたなら家事や子育てに専念している（いた）」、「結婚するまでは仕事をもち、結婚後から家事や子育てに専念している（いた）」がやや減少している。母親の働き方については、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続けている（いた）」、「結婚するまでは仕事をもち、結婚後から家事や子育てに専念している（いた）」がやや増加し、「仕事はもっていない（いなかった）」がやや減少している。一般的に望ましい働き方については、「結婚や出産にかかわらず、仕事を続けている（いた）」が大きく増加し、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続けている（いた）」が減少している。

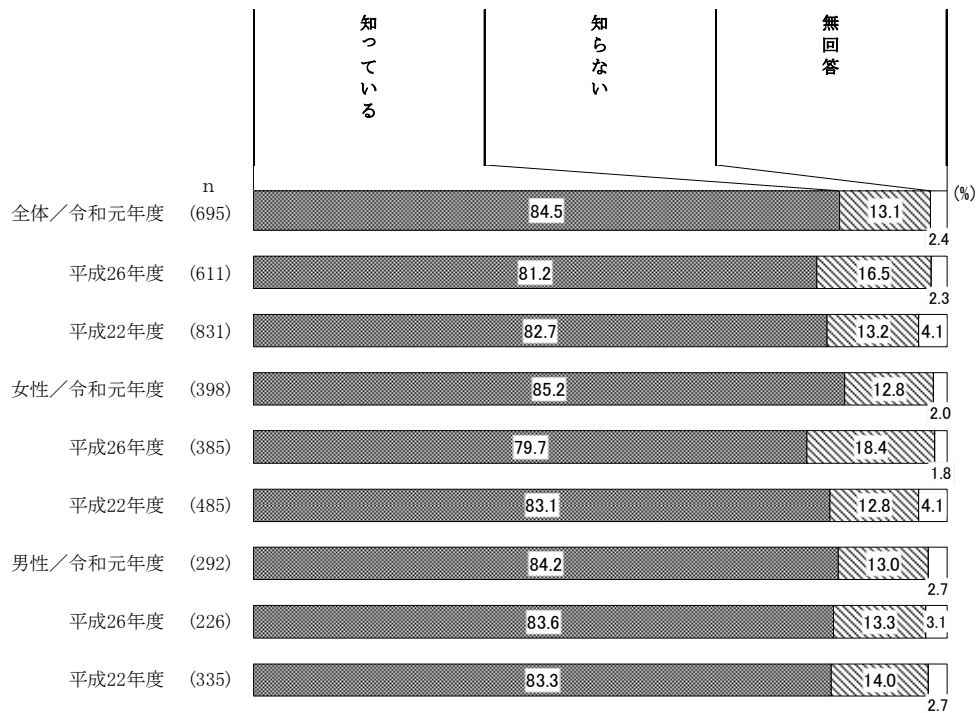


1 性感染症の予防方法の認知度

性感染症の予防方法について、「知っている」が84.5%を占めている。

性別でみると、男女間に大きな差はみられない。

経年で比較すると、平成26年度の女性で「知らない」が18.4%で最も高くなっているものの、大きな差は見られない。

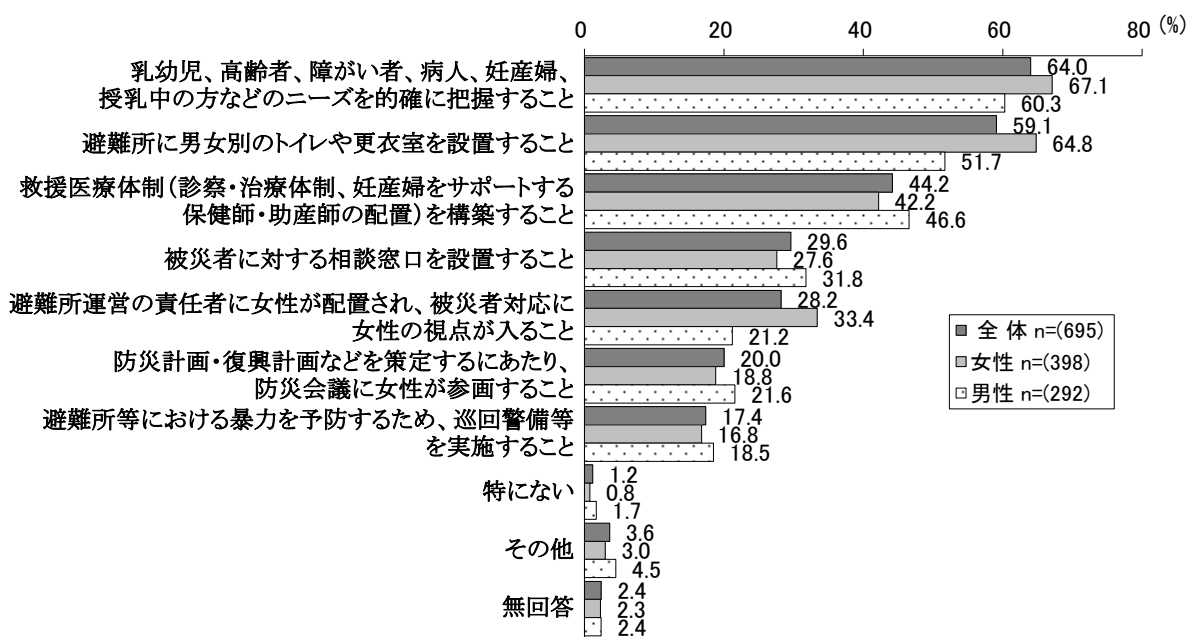


7 防災について

1 防災・災害復興対策で配慮して取り組む必要があること

防災・災害復興対策で配慮して取り組む必要があることは、「乳幼児、高齢者、障がい者、病人、妊産婦、授乳中の方などのニーズを的確に把握すること」が64.0%と最も多く、次いで「避難所に男女別のトイレや更衣室を設置すること」が59.1%となっている。

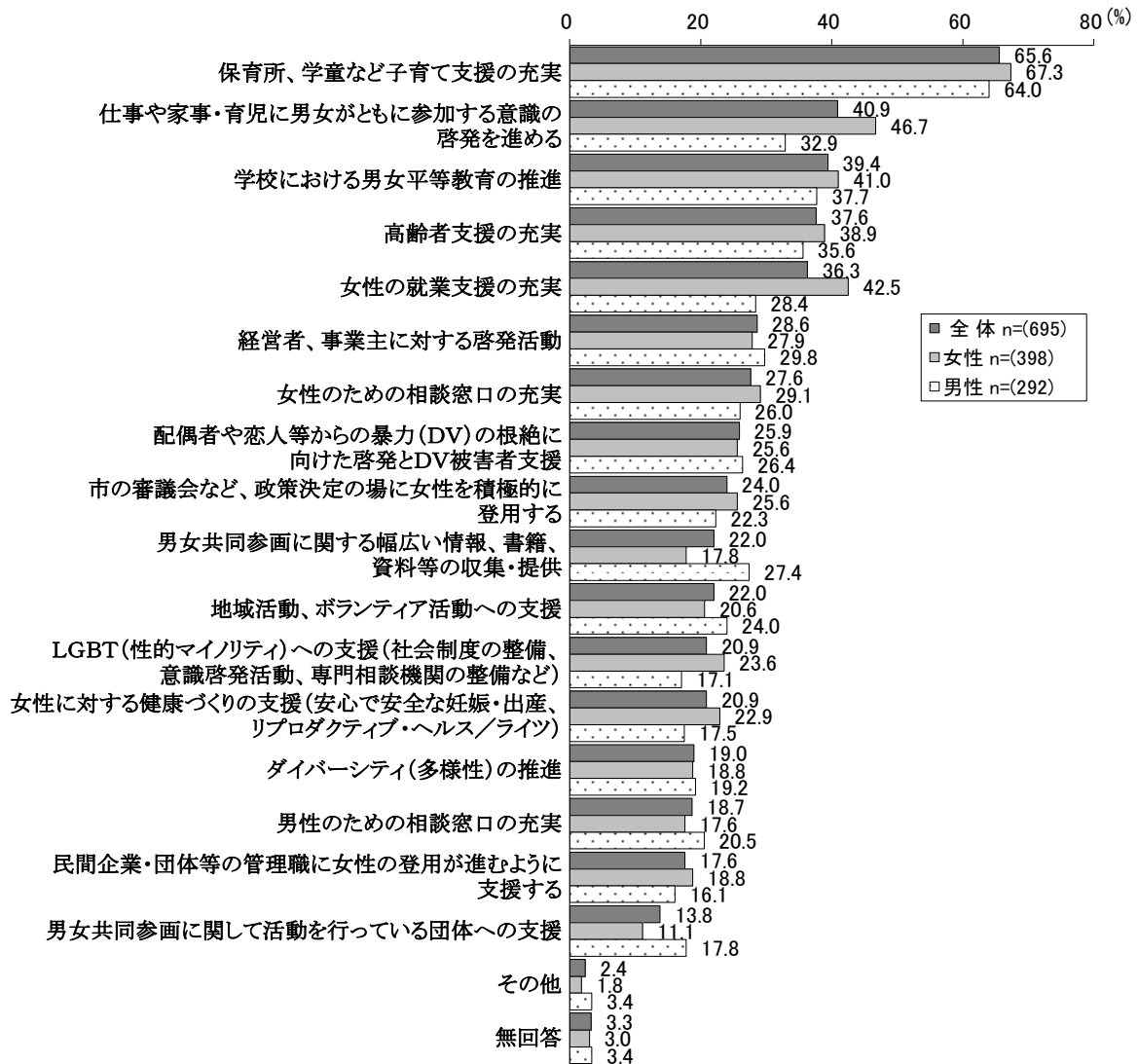
性別でみると、男女ともに「乳幼児、高齢者、障がい者、病人、妊産婦、授乳中の方などのニーズを的確に把握すること」が最も多くなっている。女性では「避難所に男女別のトイレや更衣室を設置すること」(64.8%)、「避難所運営の責任者に女性が配置され、被災者対応に女性の視点が入ること」(33.4%)が男性に比べて高くなっている。



1 男女共同参画の推進で和光市に期待すること

男女共同参画の推進で市に期待することは、「保育所、学童など子育て支援の充実」が65.6%と最も多くなっている。次いで「仕事や家事・育児に男女がともに参加する意識の啓発を進める」が40.9%、「学校における男女平等教育の推進」が39.4%となっている。

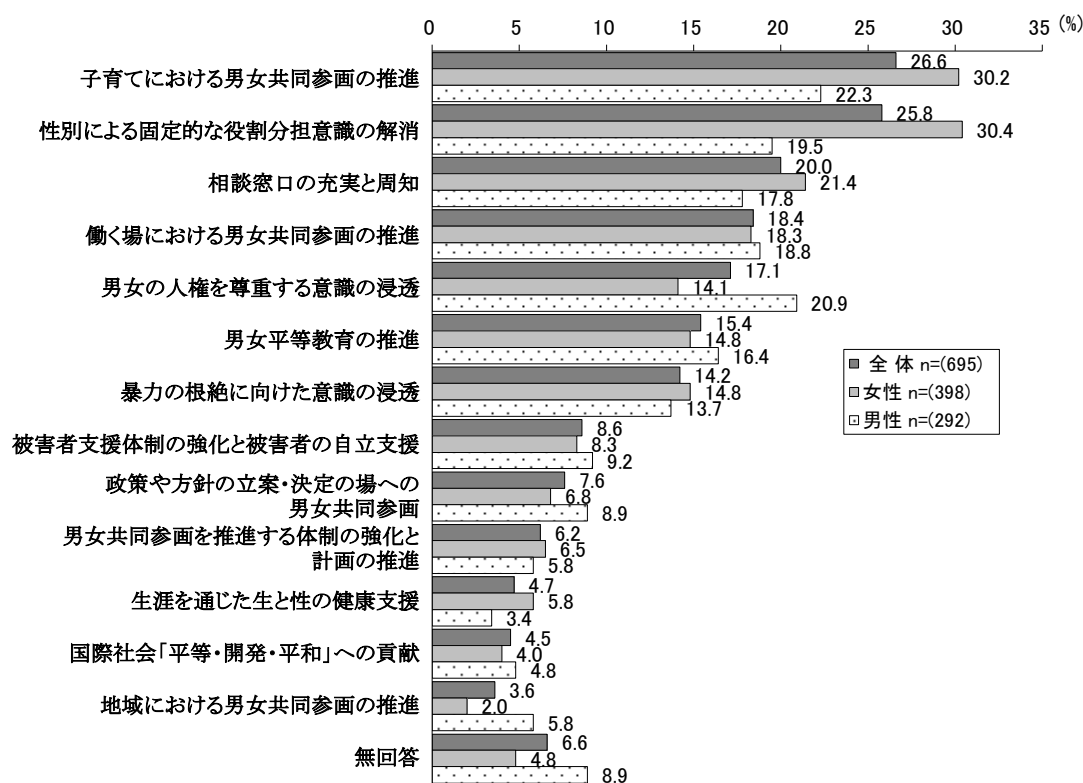
性別でみると、女性では「仕事や家事・育児に男女がともに参加する意識の啓発を進める」(46.7%)、「女性の就業支援の充実」(42.5%)が男性に比べて高くなっている。男性では「男女共同参画に関する幅広い情報、書籍、資料等の収集・提供」(27.4%)が女性に比べて高くなっている。



2 男女共同参画社会の実現のために重点的に解決すべき課題

男女共同参画社会の実現のために重点的に解決すべき課題は、「子育てにおける男女共同参画の推進」が26.6%で最も多くなっている。次いで「性別による固定的な役割分担意識の解消」が25.8%、「相談窓口の充実と周知」が20.0%となっている。

性別でみると、女性では「性別による固定的な役割分担意識の解消」(30.4%)が最も多く、男性に比べて高くなっている。男性では「子育てにおける男女共同参画の推進」(22.3%)が最も多くなっている。



こども意識調査（中学生） 回答者の属性

1 性別

	基 数（人）	構成比（％）
女子	232	47.1
男子	255	51.7
その他	4	0.8
（無回答）	2	0.4
合 計	493	100.0

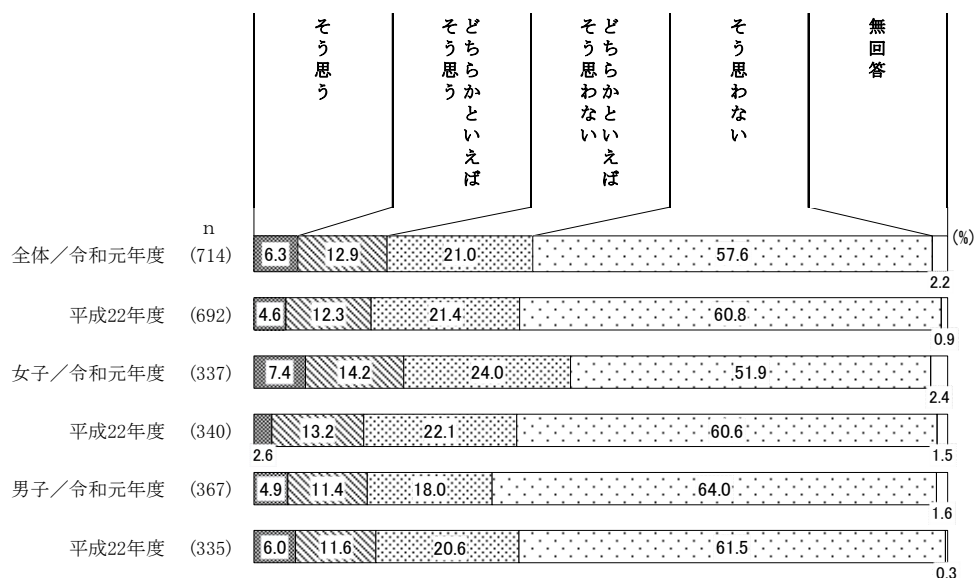
こども意識調査（小学生） 回答者の属性

1 性別

	基 数（人）	構成比（％）
女子	337	47.2
男子	367	51.4
その他	3	0.4
（無回答）	7	1.0
合 計	714	100.0

1 男女の性差についての意識

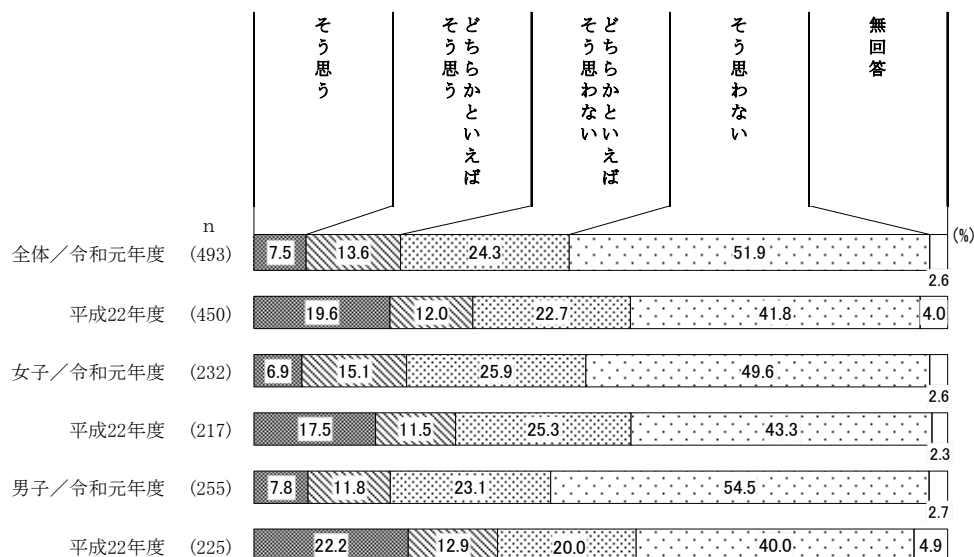
【小学生】



『学校の係で男子の係・女子の係と決まっているものがある』について、全体では「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた《そう思わない（合計）》が78.6%である。性別でみると、《そう思わない（合計）》が女子75.9%、男子82.0%と、男子が女子を上回っている。

平成22年度調査と比較すると、《そう思う（合計）》が女子で増加し、《そう思わない（合計）》が減少している。

【中学生】

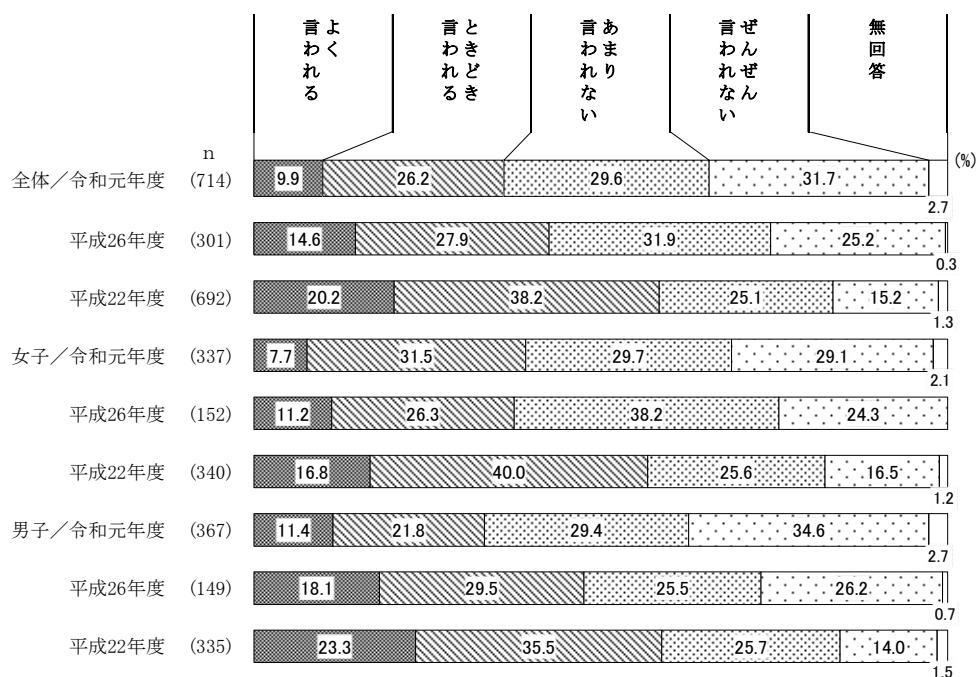


『学校の係で男子の係・女子の係と決まっているものがある』について、全体では「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた《そう思わない（合計）》が76.2%である。性別でみると、《そう思わない（合計）》が女子75.5%、男子77.6%と、男女ともに7割を超える。

平成22年度調査と比較すると、男女ともに《そう思う（合計）》が減少し、《そう思わない（合計）》が増加している。

2 性別役割を大人から強制された経験

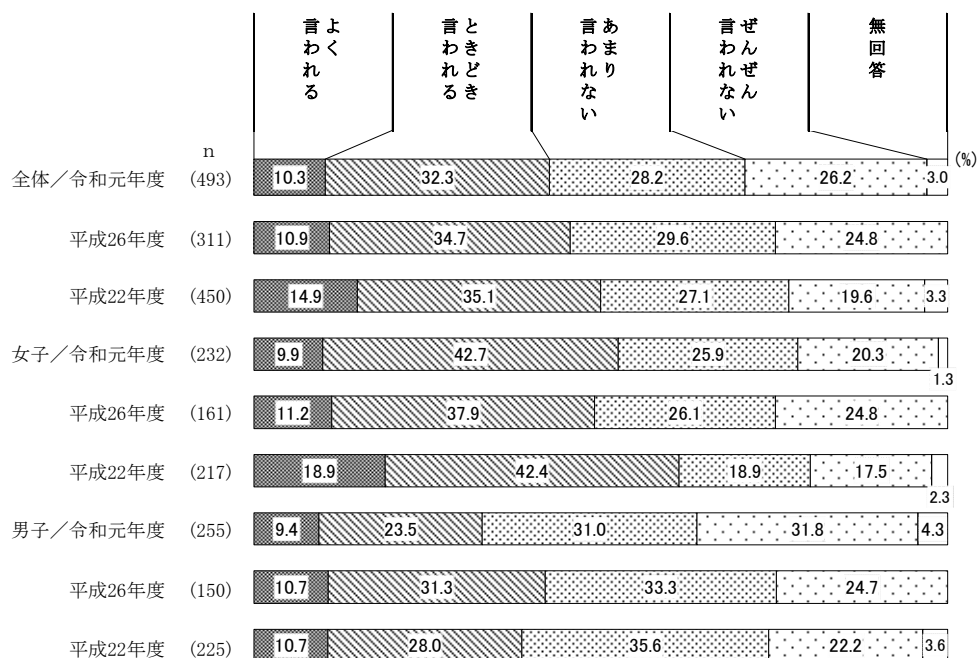
【小学生】



「女だから〇〇しなさい」や「男だから〇〇しなさい」と言われた経験については、全体では「よく言われる」と「ときどき言われる」を合わせた《言われる（合計）》が36.1%、「あまり言われない」と「ぜんぜん言われない」を合わせた《言われない（合計）》が61.3%となっている。性別でみると、《言われる（合計）》が女子39.2%、男子では《言われない（合計）》が64.0%となっている。

経年で比較すると、《言われる（合計）》は平成22年度から令和元年度にかけて、男子で大きく減少し、《言われない（合計）》は大きく増加している。

【中学生】

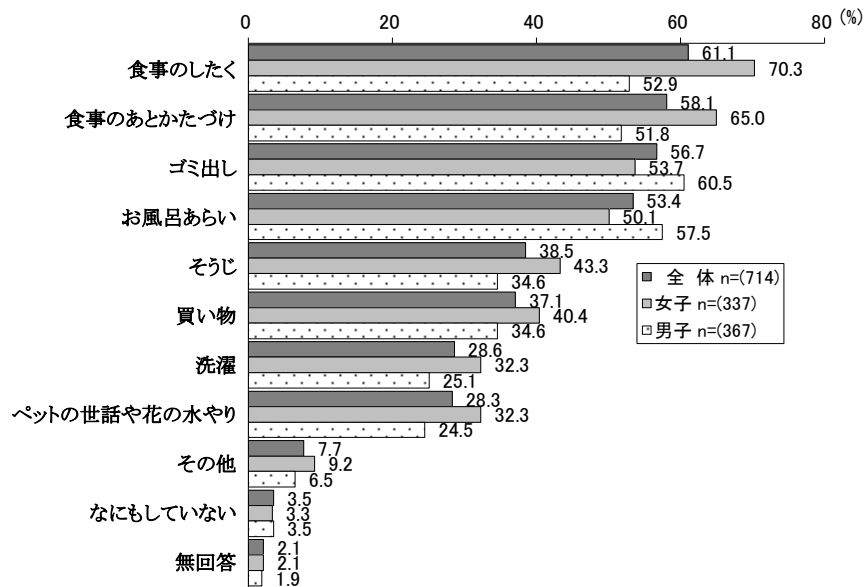


「女だから〇〇しなさい」や「男だから〇〇しなさい」と言われた経験については、全体では「よく言われる」と「ときどき言われる」を合わせた《言われる（合計）》が42.6%、「あまり言われない」と「ぜんぜん言われない」を合わせた《言われない（合計）》が54.4%となっている。性別でみると、女子では《言われる（合計）》が52.6%、男子では《言われない（合計）》が62.8%となっている。

経年で比較すると、《言われる（合計）》は平成26年度から令和元年度にかけて、女子ではやや増加し、男子では減少している。

3 家事の手伝い状況

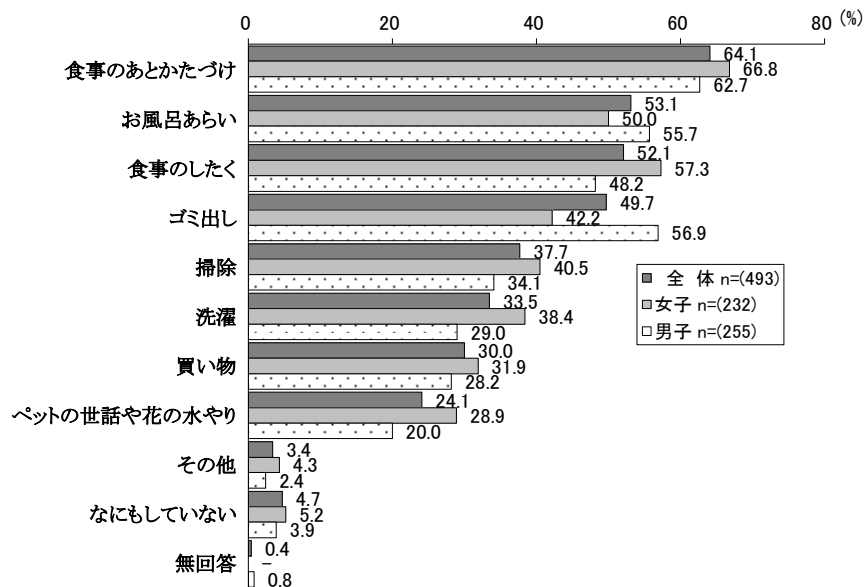
【小学生】



家事の手伝い状況については、「食事のしたく」が61.1%と最も多くなっている。次いで「食事のあとかたづけ」が58.1%、「ゴミ出し」が56.7%となっている。

性別でみると、女子では「食事のしたく」(70.3%)、「食事のあとかたづけ」(65.0%)、「そうじ」(43.3%)が男子に比べて高い。一方、男子では「ゴミ出し」(60.5%)、「お風呂あらい」(57.5%)が女子に比べて高くなっている。

【中学生】

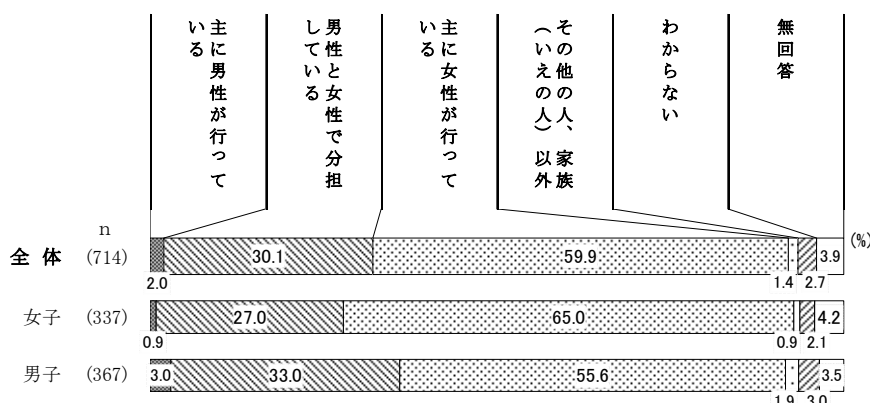


家事の手伝い状況については、「食事のあとかたづけ」が64.1%と最も多くなっている。次いで「お風呂あらい」が53.1%、「食事のしたく」が52.1%となっている。

性別でみると、女子では「食事のしたく」(57.3%)、「洗濯」(38.4%)、「ペットの世話や花の水やり」(28.9%)が男子に比べて高い。一方、男子では「ゴミ出し」(56.9%)が女子に比べて高くなっている。

① 家事（ご飯を作る・洗濯・掃除）

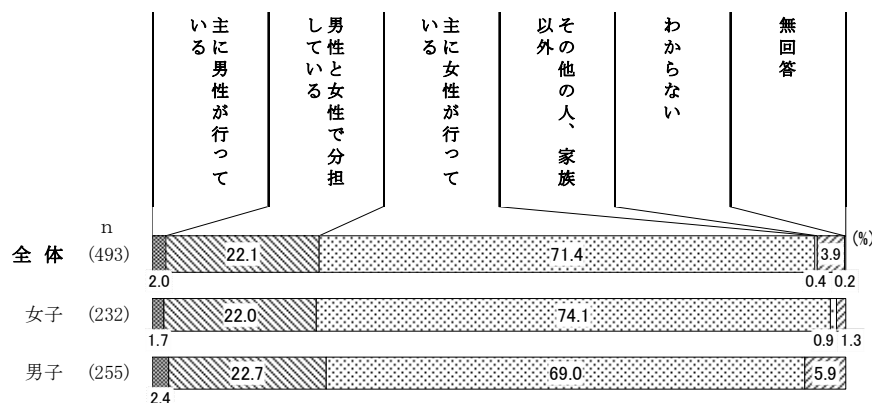
【小学生】



『家事（ご飯を作る・洗濯・掃除）』については、「主に女性が行っている」が 59.9%、「男性と女性で分担している」が 30.1%となっている。

性別でみると、「主に女性が行っている」は女子 65.0%、男子 55.6%と、女子が男子を上回っている。一方、「男性と女性で分担している」は女子 27.0%、男子 33.0%と、男子が女子を上回っている。

【中学生】

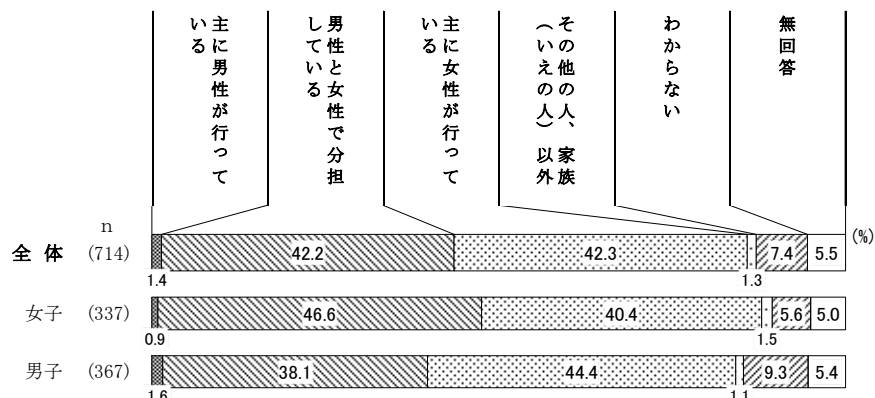


『家事（炊飯・洗濯・掃除）』については、「主に女性が行っている」が 71.4%を占めている。

性別でみると、「主に女性が行っている」は女子 74.1%、男子 69.0%と、女子が男子を上回っている。

② 子育て（子どもの世話、しつけ、教育）

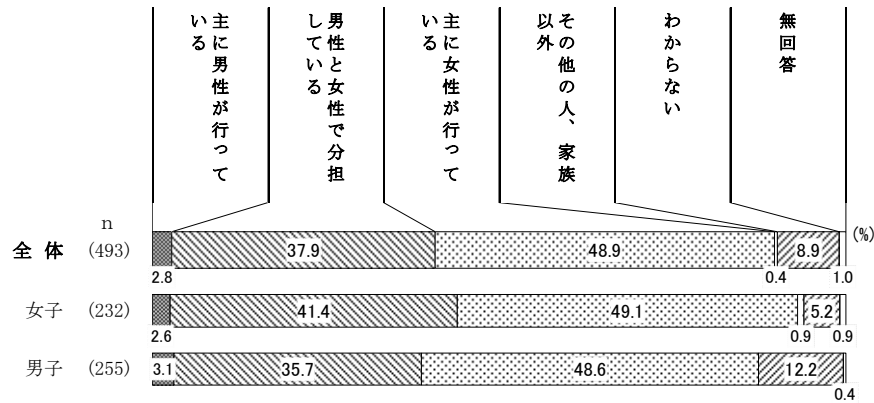
【小学生】



『子育て（子どもの世話、しつけ、教育）』については、「主に女性が行っている」が 42.3%、「男性と女性で分担している」が 42.2%となっている。

性別でみると、「男性と女性で分担している」は女子 46.6%、男子 38.1%と、女子が男子を上回っている。

【中学生】



『子育て（子どもの世話、しつけ、教育）』については、「主に女性が行っている」が48.9%、「男性と女性で分担している」が37.9%となっている。

性別でみると、「男性と女性で分担している」は女子41.4%、男子35.7%と、女子が男子を上回っている。

③ 介護（祖母・祖父母の手助け）

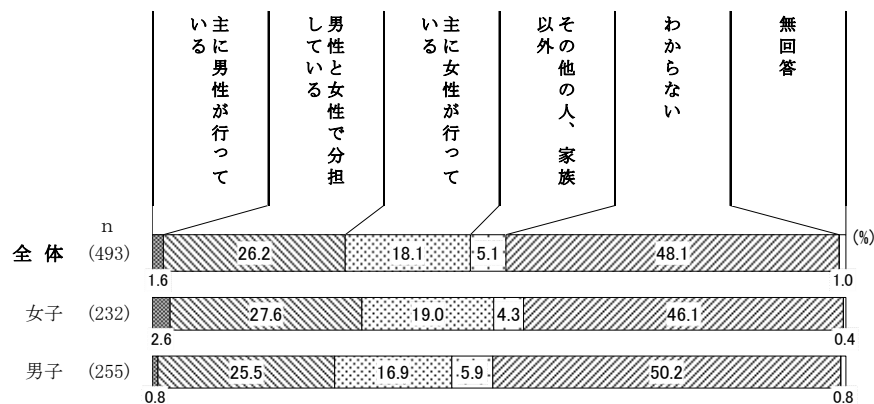
【小学生】



『介護（祖母・祖父母の手助け）』については、「男性と女性で分担している」が24.8%、「主に女性が行っている」が12.7%となっている。

性別でみると、「男性と女性で分担している」は女子28.2%、男子21.8%と、女子が男子を上回っている。

【中学生】

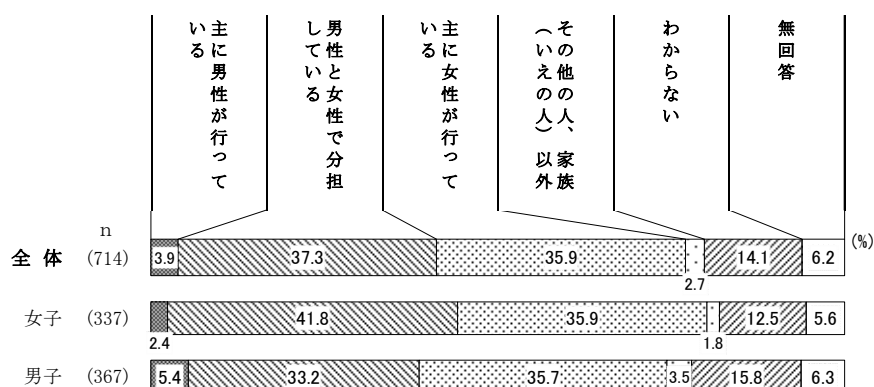


『介護（祖母・祖父母の手助け）』については、「男性と女性で分担している」が26.2%、「主に女性が行っている」が18.1%となっている。

性別でみると、「主に男性が行っている」、「男性と女性で分担している」、「主に女性が行っている」は、いずれも女子が男子を僅かに上回っている。

④ 学校の行事

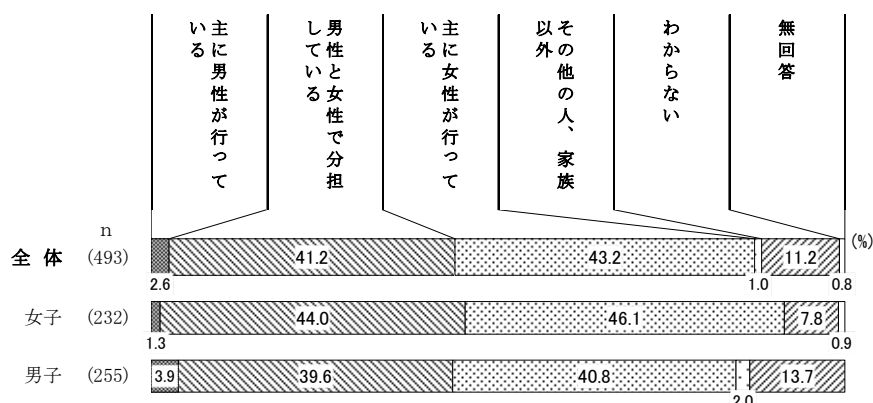
【小学生】



『学校の行事』については、「男性と女性で分担している」が37.3%、「主に女性が行っている」が35.9%となっている。

性別でみると、「男性と女性で分担している」は女子41.8%、男子33.2%と、女子が男子を上回っている。

【中学生】

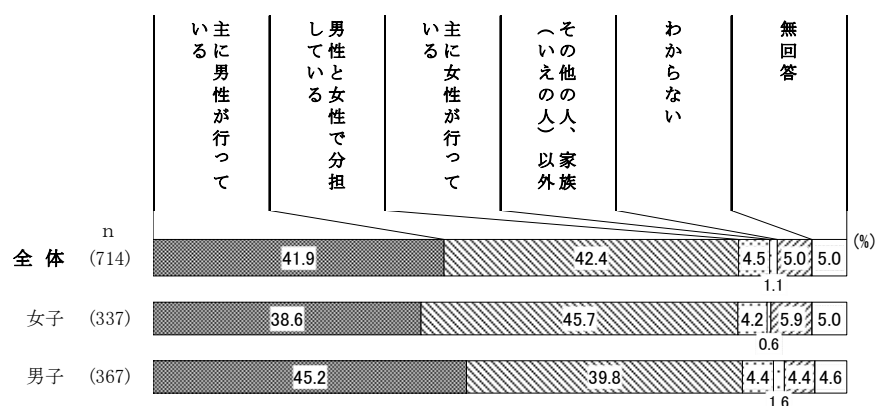


『学校の行事』については、「男性と女性で分担している」が41.2%、「主に女性が行っている」が43.2%となっている。

性別でみると、「男性と女性で分担している」、「主に女性が行っている」は、いずれも女子が男子をやや上回っている。

⑤ 仕事をして生活費を稼ぐ

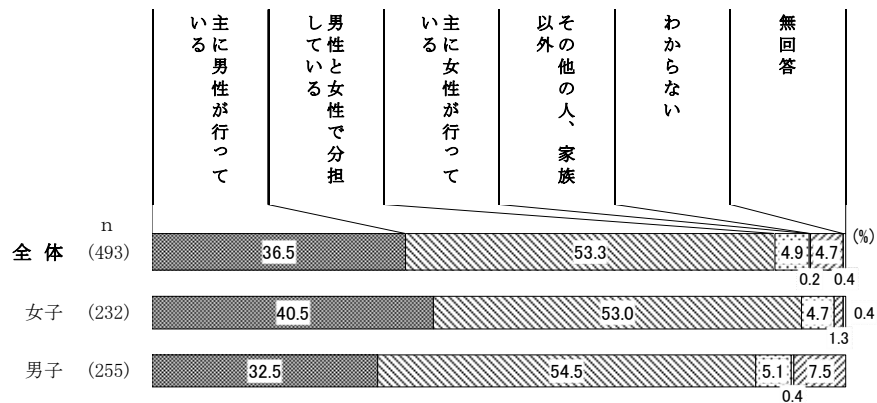
【小学生】



『仕事をして生活費を稼ぐ』については、「男性と女性で分担している」が42.4%、「主に男性が行っている」が41.9%となっている。

性別でみると、「男性と女性で分担している」は女子45.7%、男子39.8%と、女子が男子を上回っている。一方、「主に男性が行っている」は女子38.6%、男子45.2%と、男子が女子を上回っている。

【中学生】

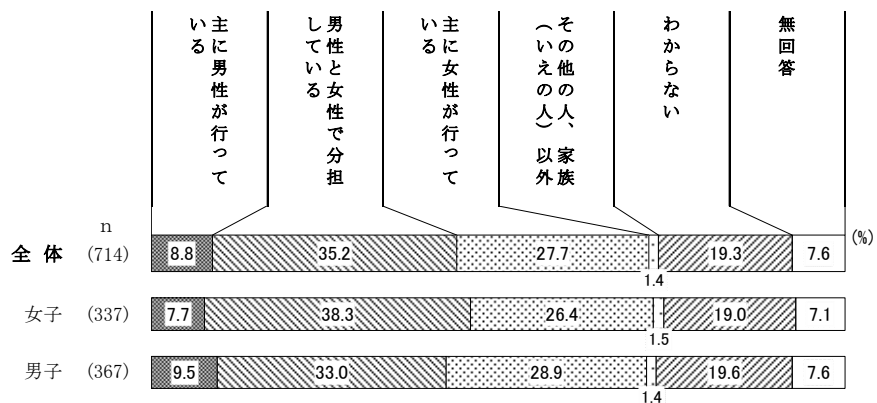


『仕事をして生活費を稼ぐ』については、「男性と女性で分担している」が53.3%、「主に男性が行っている」が36.5%となっている。

性別でみると、「男性と女性で分担している」は男女ともに過半数を占めている。「主に男性が行っている」は女子40.5%、男子32.5%と、女子が男子を上回っている。

⑥ 家計の管理

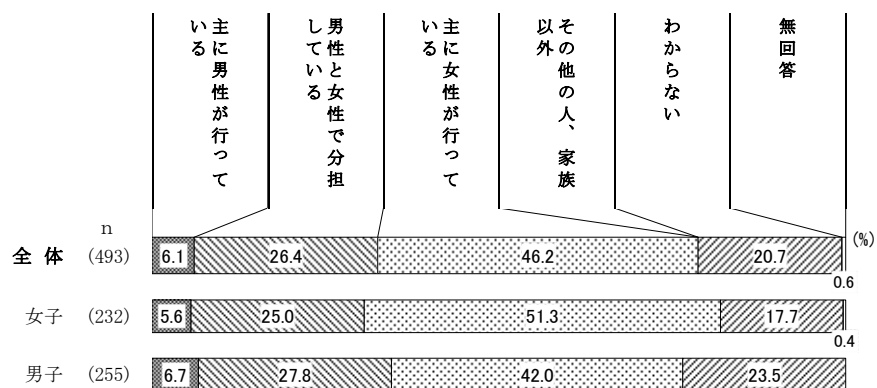
【小学生】



『家計の管理』については、「男性と女性で分担している」が35.2%、「主に女性が行っている」が27.7%となっている。

性別でみると、「男性と女性で分担している」は女子38.3%、男子33.0%と、女子が男子を上回っている。

【中学生】

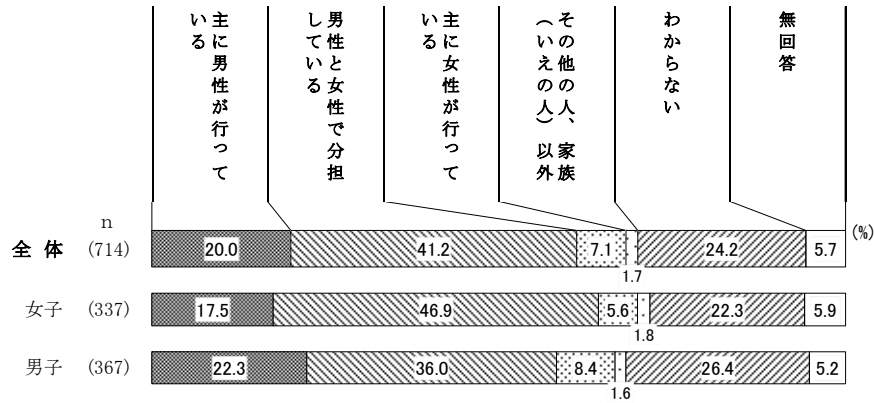


『家計の管理』については、「主に女性が行っている」が46.2%、「男性と女性で分担している」が26.4%となっている。

性別でみると、「主に女性が行っている」は女子51.3%、男子42.0%と、女子が男子を上回っている。

⑦ 高額な買い物の決定（家や車を買うとき）

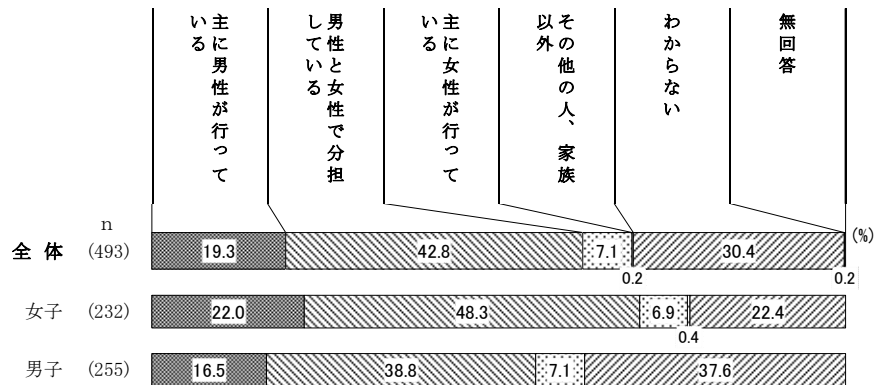
【小学生】



『高額な買い物の決定（家や車を買うとき）』については、「男性と女性で分担している」が41.2%、「主に男性が行っている」が20.0%となっている。

性別でみると、「男性と女性で分担している」は女子46.9%、男子36.0%と、女子が男子を大きく上回っている。

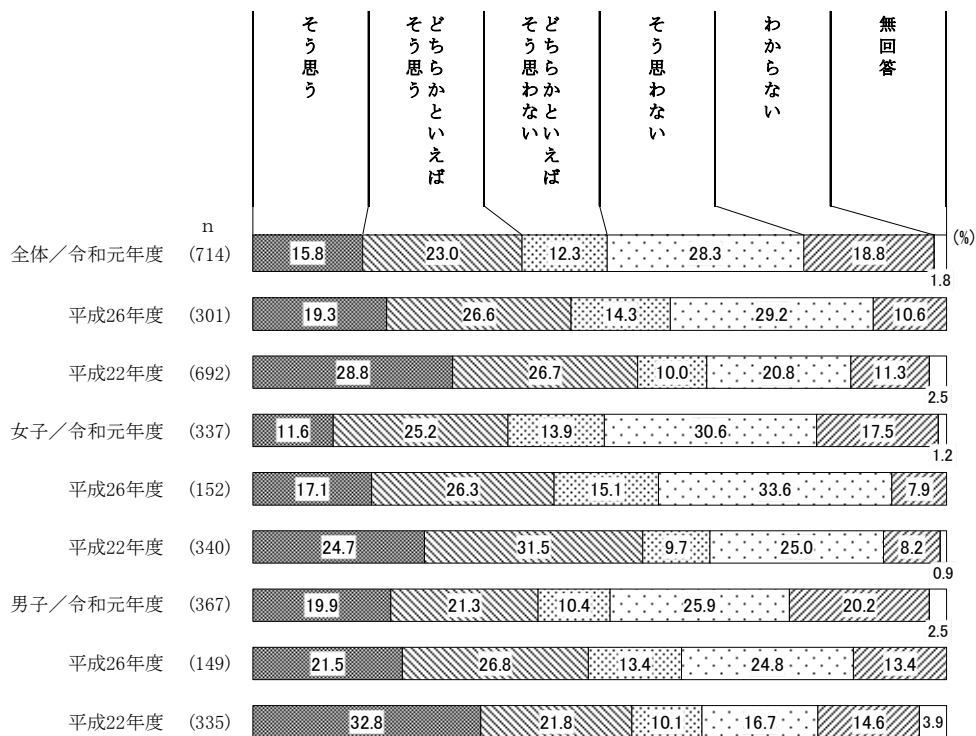
【中学生】



『高額な買い物の決定（家や車を買うとき）』については、「男性と女性で分担している」が42.8%、「主に男性が行っている」が19.3%となっている。

性別でみると、「男性と女性で分担している」は女子48.3%、男子38.8%と、女子が男子を上回っている。

【小学生】

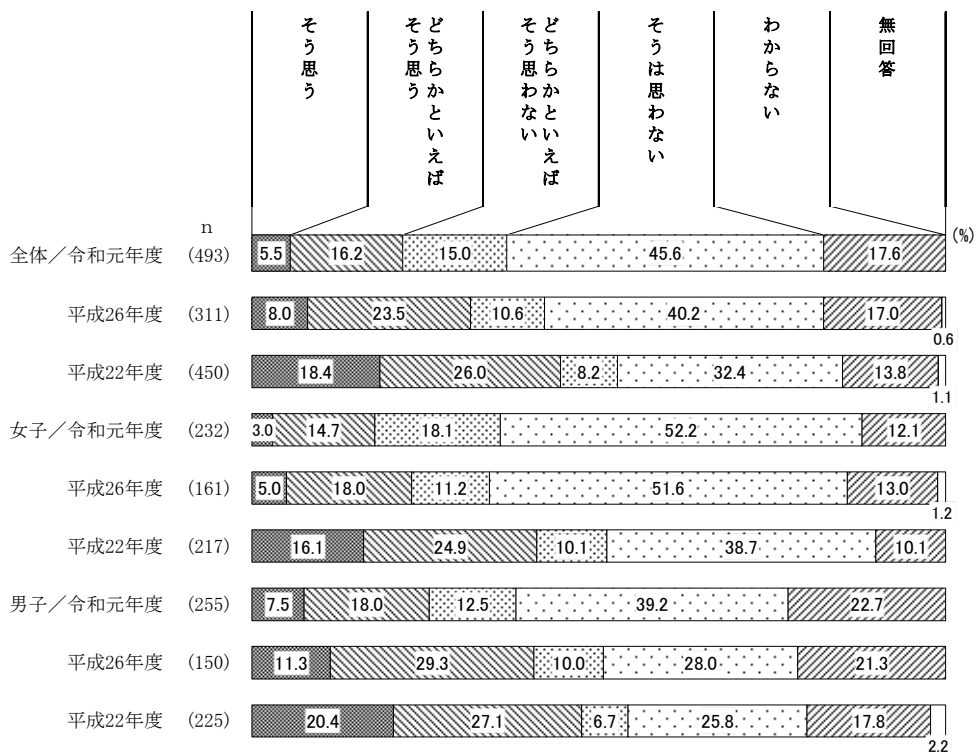


「男は仕事に専念して、女は家庭を守るべき」と思うかについては、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた《そう思う（合計）》が 38.8%、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた《そう思わない（合計）》が 40.6%となっている。

性別でみると、《そう思わない（合計）》が女子 44.5%、男子 36.3%と、女子が男子を上回っている。

経年で比較すると、《そう思う（合計）》は平成 22 年度から令和元年度にかけて、男女ともに大きく減少している。一方、《そう思わない（合計）》は平成 26 年度から令和元年度にかけて、女子ではやや減少している。

【中学生】



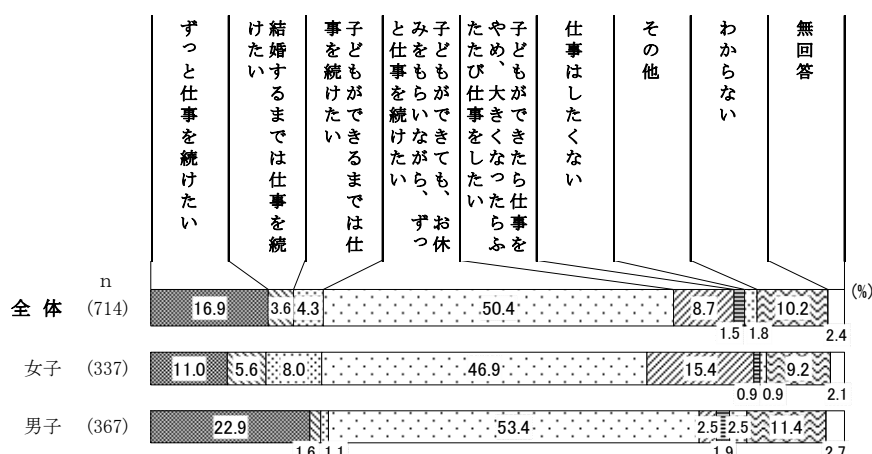
「男は仕事に専念して、女は家庭を守るべき」と思うかについては、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた《そう思う（合計）》が21.7%、「どちらかといえばそう思わない」と「そうは思わない」を合わせた《そう思わない（合計）》が60.6%となっている。

性別でみると、《そう思う（合計）》が女子17.7%、男子25.5%と、男子が女子を上回っている。一方、《そう思わない（合計）》が女子70.3%、男子51.7%と、女子が男子を大きく上回っている。

経年で比較すると、《そう思う（合計）》は平成26年度から令和元年度にかけて、男女ともに減少しており、特に男子では大きく減少している。一方、《そう思わない（合計）》は平成26年度から令和元年度にかけて、男女ともに増加しており、特に男子では大きく増加している。

5 希望する将来の働き方

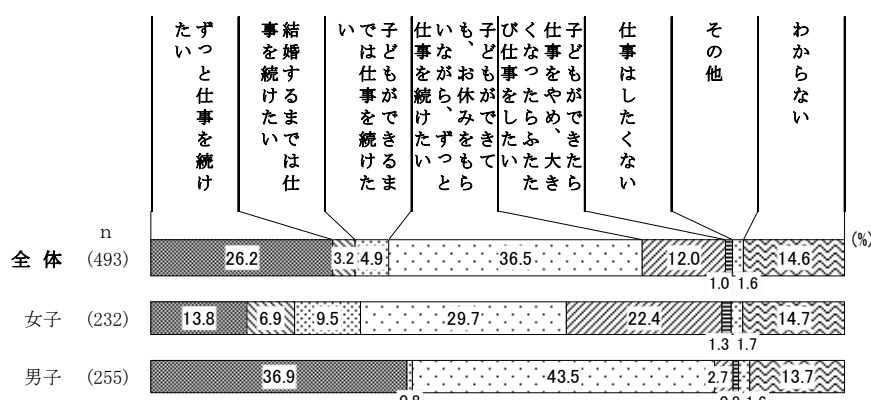
【小学生】



希望する将来の働き方は、「子どもができて、お休みをもらいながら、ずっと仕事を続けたい」が50.4%である。また、「ずっと仕事を続けたい」が16.9%となっている。

性別でみると、「子どもができたらかたたび仕事をしたい」が女子15.4%、男子2.5%と、女子が男子を大きく上回っている。一方、「ずっと仕事を続けたい」が女子11.0%、男子22.9%と、男子が女子を大きく上回っている。

【中学生】

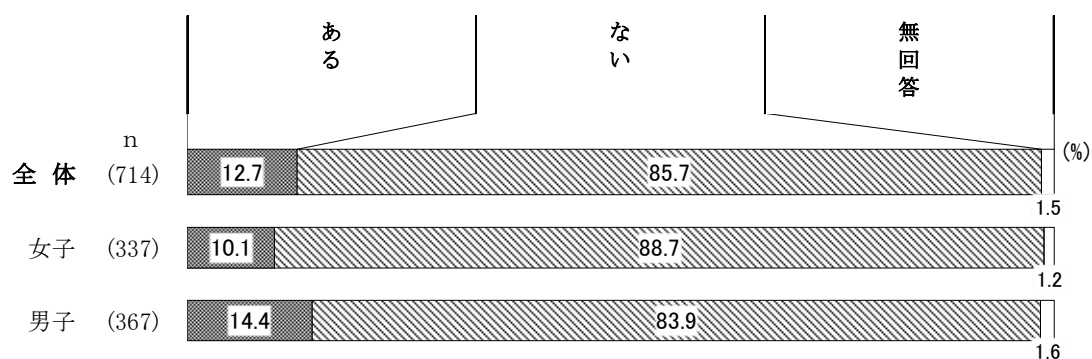


希望する将来の働き方は、「子どもができて、お休みをもらいながら、ずっと仕事を続けたい」が36.5%である。また、「ずっと仕事を続けたい」が26.2%、「子どもができたらかたたび仕事をしたい」が12.0%となっている。

性別でみると、「子どもができたらかたたび仕事をしたい」が女子22.4%、男子2.7%と、女子が男子を大きく上回っている。一方、「ずっと仕事を続けたい」が女子13.8%、男子36.9%、「子どもができて、お休みをもらいながら、ずっと仕事を続けたい」が女子29.7%、男子43.5%と、いずれも男子が女子を大きく上回っている。

6 デジタルデバイスによる見知らぬ人とのやりとりの経験

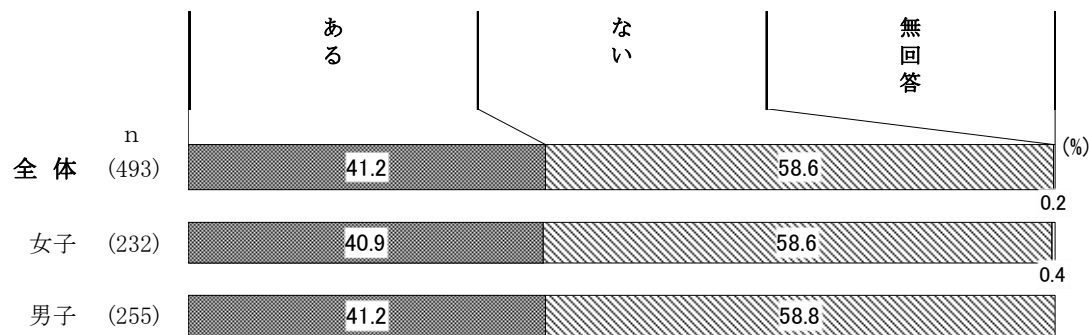
【小学生】



デジタルデバイスによる見知らぬ人とのやりとりの経験は、「ある」が 12.7%である。一方、「ない」が 85.7%を占めている。

性別でみると、「ある」は、女子が 10.1%、男子が 14.4%で、男子が女子をやや上回っている。

【中学生】

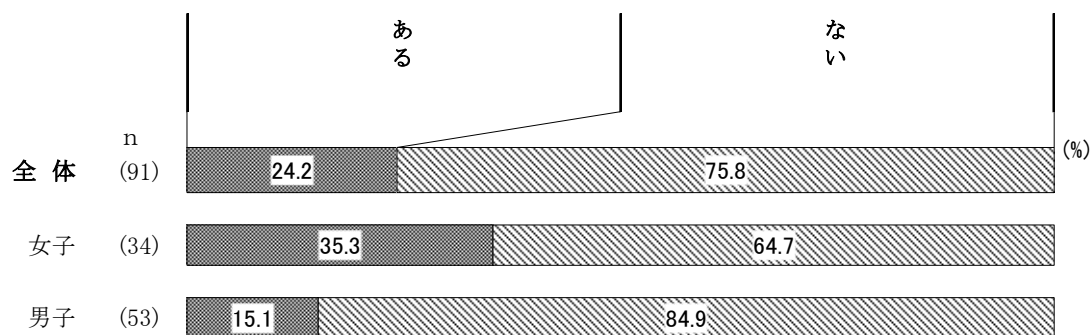


デジタルデバイスによる見知らぬ人とのやりとりの経験は、「ある」が 41.2%、「ない」が 58.6%である。

性別でみると、男女間に大きな差はみられない。

7 見知らぬ人とやりとりをして怖い思いをした経験

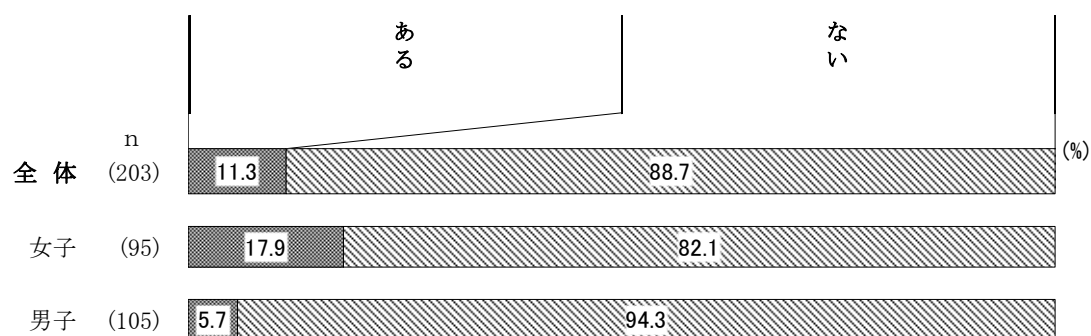
【小学生】



見知らぬ人とやりとりをして怖い思いをした経験は、「ある」が24.2%である。一方、「ない」が75.8%を占めている。

性別でみると、「ある」は、女子 35.3%、男子 15.1%で、女子が男子を上回っている。

【中学生】



見知らぬ人とやりとりをして怖い思いをした経験は、「ある」が11.3%、「ない」が88.7%である。

性別でみると、「ある」は、女子 17.9%、男子 5.7%で、女子が男子を上回っている。

